

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

大衆化への第一歩?! インターネット対応テレビ登場

いまやあたり前となったインターネットの話題に、さらに新たな話題が一つ加わった。インターネット対応テレビの登場である。いまや一家に1台どころか1人に1台はあたり前になりつつあるテレビにインターネット機能を付加したインターネットテレビは、いったいどのように利用されるのだろうか？

(本誌編集長 中島由弘)

インターネットに対応したテレビが家電メーカー3社からつぎつぎ発表された。まず7月29日に三菱電機が、9月2日にシャープが、そして9月9日に三洋電機が発表し、10月の初旬から下旬にかけて発売を開始する。各機種とも機能上の若干の違いはあるもののテレビでWWWのブラウジングと電子メールができることを特徴としている(TELNET、FTP、ネットニュースにはいずれも未対応)。それぞれのおおまかな機能の比較と価格を表1にまとめた。

インターネットの利用に耐えられるか？

インターネットテレビは、基本的にはワイ

ド画面なので、半分の画面に通常のテレビ番組を映し、残りに半分にブラウザーの画面を映すといった使い方もできる(利用者がやりたいかどうかは別だが)。

ところで、これらの製品はインターネットのクライアントと考えると難しい位置づけにある。まず、家電製品としてのテレビは、その寿命はだいたい10年くらいだろう。そう簡単に買い替えるものではない。しかしコンピュータを10年使う人はどれだけいるだろうか？ しかも、インターネットのように技術革新の激しい分野ではなおさらだ。テレビとしてはまだ使えても、インターネット機能が陳腐化してしまうことは容易に予想できる。まして内蔵モデムがなんと14.4Kbpsだったりすると、あと半年も満

足に使えないのではないかという不安がある。

電子メール機能として、ソフトキーボードを使ったり、定型文があらかじめ用意されている(シャープ)というのも、果たしてどの程度、使い物になるのかについて、いずれ本誌でもテストしてみたいテーマだ。

また、ブラウザーなどのアプリケーションの入れ替えができないところも気になる。つぎつぎと新しい仕様が策定され、表現力のあがるページを内蔵のブラウザーでどこまで対応できるのだろうか？ そして、動画や音声などをあたり前のように使う最近のWWWサイトをテレビで楽しむことはできるのだろうか？ 編集部ではまだ実機に触れていないので断定できないが、不安な一面である。

テレビやビデオの番組予約もできる？

シャープのインターネット対応テレビはリモコンの「インターネット」ボタンを押すだけで、「InterTV」という生活情報が提供されるページを表示する。これはインターネット機能を持ったテレビで楽しむためのページだといってもいいだろう。

また、このページのなかには「TVナビ」

というページが用意されていて、現在表示しているテレビ番組のみどころや出演者の情報を見ることができるといふ。

そして、期待できるのが番組予約機能だ。このページでみたい番組をあらかじめ選択しておく、パソコンとつながった赤外線コントローラーを使ってテレビやビデオを制御する。

家電製品とインターネットを関係づける場合、単にWWWが見られるだけではなく、こうしたテレビと連動したコンテンツも用意していく必要もあるだろう。

非PCがインターネットにつながる

ここ数か月、ゲーム専用機のインターネット対応を始め、PDA(携帯情報端末)やファクシミリのインターネット対応など、非コンピュータ製品がインターネットにつながり始めた。インターネット対応のテレビはその流れの一つだ。

パソコンはそもそもディスプレイ装置を使って使うものだから、形としてはテレビに似ている。最近ではインターネットで流されるコンテンツも映像などが増えてきており、徐々にテレビに近くなりつつある。将来はパソコンはインタラクティブな機能を持ったテレビに発展する可能性もあるだろう。

つまり、開始が予定されているデジタル衛星放送



「インターネットテレビ」28W-MM1型(三菱電機)

インターネットニュースの見方

などで、ますますコンピュータを意識した番組づくりが進んでいくことを見据えた、1つの「コンセプトモデル」といえるのではないだろうか？

ネットスケープ社が提供する家庭電化製品へのテクノロジー

非PCのインターネットへのコネクティビリティを提供する会社として、米ネットスケープ社は8月28日Navio Communications社を設立した。Navio Communications社は、ネットスケープ社のブラウザの技術を非PCの製品、つまり電話、テレビなどに取り入れていくことを目標としている。このような会社が登場したことで、今後は非PC製品のインターネット対応はますます賑やかになることだろう。

現在インターネットがいくつ話題になっても、所詮「コンピュータを使える人」、そして「インターネットが好きの人」が使うものことになってしまう。しかし、インター

ネットが社会のインフラとして意味を持つていくためには、インターネットを使っているかどうかはまったく気にすることなく、一般の利用者が知らず知らずのうちに使えるような製品を出していかなければならないだろう。技術を意識しなくなってきたとき、いよいよ本物のデジタルコミュニケーションの時代がやってくるのかもしれない。



富士通とシャープが開始したInterTV。本誌発売時にはウェブの画面からテレビやビデオの番組予約が可能になっているはずだ。

表1: 3社の製品の機能比較表

メーカー名	三菱電機	シャープ	三洋電機	
型名	28W-MM1	32C-PC1	C-28WNT1	C-21NT1
標準価格	270,000円	330,000円	198,000円	115,000円
画面サイズ	28型(ワイド)	32型(ワイド)	28型(ワイド)	21型
解像度	640×480ドット	640×480ドット	640×480ドット	
通信速度	14.4Kbps	28.8Kbps	14.4Kbps	
WWWブラウザ	独自	独自	独自	
電子メール機能	送受信	送受信	送受信	
音声/動画	未対応	AU/WAV/AIFF	未対応	
月産台数	2,000台	2,000台	3,000台	7,000台



「ネットワークビジョン」32C-PC1型(シャープ)



「インターネッター」C-28WNT1 / C-21NT1(三洋電機)

マルチメディア地域利用実験で インフラ整備を進める大分県

「豊の国ハイパーネットワーク整備事業」を推進する大分県は、95年からNTTと共同でマルチメディアの地域利用実験に取り組んでいる。この7月からは、県内18か所を結びNTTの光ファイバーネットワークを利用して、半官半民の大分情報化委員会準備会の運営のもとでマルチメディア会議や電子決済など具体的なサービスをスタートしている。この活動に重要な役割を果たしているのは、地域ネットワークのニューコアラだ。 (編集部)

県内18か所を結び 地域利用実験の中身

実験のサーバーセンターとなる施設は、大分市のソフトパーク内第2ソフィアビルにある「ハイパーステーション」である。ここを中心として、大分県の病院、学校、企業、商店街など県内18か所が6Mbpsの光ファイバーで結ばれている(図1)。ハイパーステーションにはサーバールームだけでなく、インターネットワールドエキスポ'96のパブリックアクセスポイントに指定されているアクセスコーナーや、ニューコアラのストリームワークス番組に使われるビデオスタジオ、ホームページを制作するマルチメディア工房、ニューコアラの事務局などがあり、インターネット利用施設として市民に開放されている。

ニューコアラとその研究部門である(財)ハイパーネットワーク社会研究所は、今回

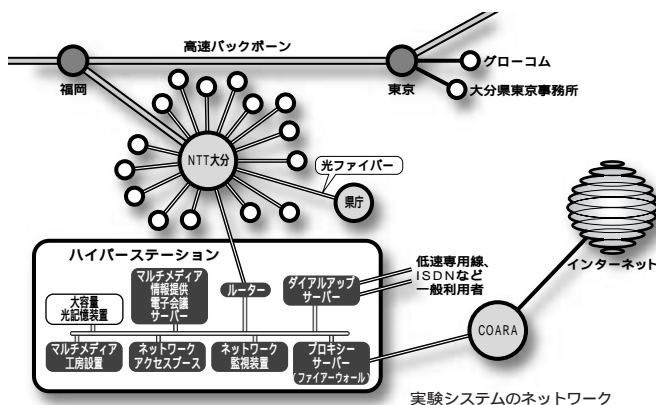
の実験で利用される3つの通信アプリケーションを開発している。7月19日のハイパーステーションの落成式で初公開された「ビデオメール」は、音声も含めてビデオデータをインターネットメールで送ることができるもので、無料で広く配布する計画だ。また、「マルチメディア電子会議システム」は、発言とレスポンスからなるパソコン通信の電子会議システムをホームページ形式で利用できるようにしたもので、発言メニューを選択するとHTMLエディターが起動してホームページの形でコメントを登録したり、会議を階層化したりすることができる。これはネットスケープのヘルパーアプリケーションとして開発されているので簡単に導入できる。このほか情報を提供する企業や個人を支援する「マルチメディア情報提供サービス」も開発した。光ファイバー回線を地域の「ハードインフラ」とすると、これらのアプリケーションは「ソフトインフラ」

と位置づけられている。

具体的なサービスとしては、ニューコアラが運営するモール「一村一品バーチャルショップ」でクレジットカードのオンライン決済ができるようにした。これは地図情報と結びつけた電子決済機能付きデータベースとして発展させ、地域の企業に活用してもらおう考えた。9月15日には、ニューコアラと大分ケーブルテレビと共同で、都市型ケーブルテレビの他地域の番組をストリームワークスでインターネットに中継する試みも行われている。

インフラ整備を加速させる ニューコアラの草の根活動

このように、一般企業、メディア、個人と、さまざまな立場で利用されるサービスやソフトの開発は、地域ネット「ニューコアラ」をベースに進められている。ニューコアラに参加する地域の企業や個人が新しい情報インフラを実際のビジネスや生活に活用することが、技術実験を超えた「地域利用実験」の意味であると尾野徹ニューコアラ事務局長は話す。しかし、それを地域社会に広く浸透させて県内全域に環境を整備するには、まだまだ多くの課題がある。OCNサービスの開始が目前にせまり、通信インフラの整備が急速に進むと予感されている現在、ニューコアラのような市民主導型の地域ネットワークが果たす役割はますます大きくなっている。



実験システムのネットワーク



7月19日、ハイパーステーションの落成式で平松守彦知事とNTTの宮津純一郎社長がビデオメールを交わした



高速デジタル専用線に 低料金の新サービス NTTが10月から提供

NTTは近距離の高速デジタル専用線サービスについて、新たに低廉化を図った64Kbpsの「デジタルアクセス64」と、128Kbpsの「同128」を10月1日から順次提供する。64Kbpsと128Kbpsのデジタル専用線の市場はインターネット需要などで急速に拡大しているが、内外価格差の是正についての要望も高いのが現状。このため、機能を簡素化するとともに、保守に差を設けて低廉化したサービスを開始することにした。距離区分に15kmまでと30kmまでの2区分があり、料金は15kmまでのものが28,000円で、従来サービスの53,000円に比べ47%安となっている。

問い合わせ NTT専用線営業担当
TEL0120-07-1400



日本ユニシスが 全国一律料金の 接続サービスを開始

日本ユニシスは、インターネット接続サービス「U-netSURF」で、全国一律の料金で接続できる新サービス「全国一律とくとくサーフ」を開始した。日本高速通信の「データオンデマンド(データ送受信)サービス」を利用したもので、最寄りのアクセスポイントがない地域からでも、全国同一の電話番号「0070-611-191932」へダイヤルすることで、全国均一の電話料金でインターネットに接続できる。回線速度は14.4~28.8Kbpsで、ISDN接続は利用できない。料金は平日昼間で20円/分、夜間と休日は10円/分、深夜・早朝は9円/分。

問い合わせ 日本ユニシス㈱
TEL03-5546-3414
URL <http://www.netsurf.ad.jp/>



衛星移動通信利用の インターネット中継 NTTドコモが実験開始

NTT移動通信網(NTTドコモ)は、衛星移動通信サービスを利用して、富士山頂や西表島などのライブ映像をインターネットで生中継する実験を開始した。実験はビデオカメラで撮影した映像を、動画伝送装置と衛星携帯電話を利用してNTTグループの通信衛星「N-STAR」に伝送し、衛星基地局を介してインターネット上に中継するもの。このシステムを利用すれば、軽量でコンパクトな機器で構成されるため持ち運びが可能で、従来は放送局に限られていた生中継が個人レベルでも可能になる。また、遠隔制御カメラにより完全無人の中継もできる。伝送速度はカラー画像で数秒に1コマ程度。映像は同社のホームページで公開している。

URL <http://www.nttdocomo.co.jp/>



米ネットスケープが 子会社 Navio 社設立 家電分野に参入

米国ネットスケープ社は、テレビや電話、ゲーム機などの家電・非パソコン機器向けにNetscape Navigatorの技術を提供していく子会社「Navio Communications社」を設立した。Navio社は、Netscape Navigatorの技術をベースに、テレビやゲーム機、電話、ネットワークコンピュータなどでインターネットを利用できるようにすることを狙いとしている子会社で、当面はこれらの機器でインターネットのコンテンツを見ることができるようになる。

すでに、ソニー、任天堂、NEC、セガ、IBM、オラクルなどと協力して家電向けのソフト開発を進めているという。

URL <http://www.navio.com/>



企業間 EC 推進のため NEC、住商など15社で 電子公証システム実験

NEC、住友商事、住友銀行、アンリツ、日通工など約15社により、企業間の電子商取引を実現するための「電子公証システム」の実験が来年6月からインターネット上で開始される。この実験は企業間で電子商取引を行う際に、契約締結の存在や契約日、契約内容などを電子的に公証するしくみを構築するもの。電子公証システムは、インターネット上の公証人役場に相当する。実験では暗号化した受発注、入出荷、支払い、請求などの情報をインターネット上でやり取りする際に、電子公証を行うための「情報管理センタ」を介して行い、電子商取引に伴う企業間のトラブルを解消できるようにする。

問い合わせ NEC 第二C&Cシステム事業本部
ICEC実験コンソーシアム事務局
TEL03-3456-0994



新会社設立で アジア太平洋地域を 高速専用線で接続

アジア・インターネット・ホールディング(AIH)は、韓国の大手プロバイダー、I-NetTechnologyとインターネット接続および関連サービスを行う合弁会社を韓国で設立する。新会社の名称はエーアイエイチコリア。韓国の第一種通信事業者DACOM Groupも合弁に参加する予定。

新会社は、AHIがIIJや香港スーパーネットなどのアジア太平洋地域のプロバイダーとの提携によりアジア太平洋地域をダイレクトに接続する高速大容量のインターネットインフラ「A-Bone」に1.5Mbpsの専用線で接続し、韓国だけでなく、日本、香港、シンガポールなどアジア各国への高速通信を可能とする。さらに、IIJが保有する米国向け90Mbpsなどのネットワーク経由で全世界に接続する。

Business Media Galaxy が 本格ビジネスサイトへ リニューアル

大日本印刷は、昨年10月に開設した共同ホームページ「Media Galaxy」を10月1日からリニューアルし、約100社の企業が参加する大規模なビジネスサイトとする。Media Galaxyは、約40社が参加してインターネットのビジネス利用を共同研究する目的で開設されたが、この1年間でインターネットを取り巻く環境が大幅に進化したため、共同研究の場からインターネットビジネス実践の場へと、本格的なビジネス利用を図るための体制を整えることにした。これに伴い、コンテンツ企画・制作を行う部署として「インターネット工房」を新設。また、年間参加費用も従来の100万円から36万円へと大幅に引き下げた。

URL <http://www.mediagalaxy.co.jp/>

Service インターネットで使う 電子マネーシステム NTTが新作発表

NTTは、インターネットの利用を想定した電子マネーの新しい実験システムを試作したと発表した。昨年12月に発表したものを日本銀行金融研究所の協力を得て改良したもので、ICカードと暗号技術を組み合わせて開発されている。今回のおもな改良点は、(1)高速デジタル署名などにより安全性が向上したこと(2)従来は単独の銀行で電子マネーを発行していたが、金融機関とは別に電子マネーの発行機関を設けたことにより複数の金融機関で同じ電子マネーを使うことができるようになったこと(3)電子マネーを自由な単位に分割することや利用者間で譲渡することが実用的な時間内に処理できるようになったことなどがあげられる。

Service デジタル音楽の総合サービス 12社が出資して新会社を設立

エム・シー・エス、NTT、第一興商、インプレス、伊藤忠など12社は、インターネットを利用したデジタル音楽提供会社、ミュージック・シーオー・ジェービーを設立した。新会社ではミュージシャンのホームページ制作や、CDやビデオやCD-ROMなどのソフトや楽器、オーディオ、チケットの販売などの事業を行う。また、ライブ音源を中心にインターネット上での有料音楽配信やオンラインカラオケサービスなども提供していく。そのほかにも、電子決済システムやデジタル作品著作权管理システムなどの開発・運用事業も手がける。

同社と会員契約を結んだユーザーは、自分の好きな曲をインターネットからダウンロードして、事前に入手した無料のプレー

ヤーソフトで聴くことができる。また、アーティストや関係企業などとのコミュニケーションやコンサートなどの情報も入手できる。

ミュージック・シーオー・ジェービーは年内には事業会社に移行し、年度内には本格的な事業を開始する。

URL <http://www.music.co.jp/>
問い合わせ (株)ミュージック・シーオー・ジェービー TEL03-5414-7700



音楽の総合サービスを目指す

Business 栃木放送などが バーチャルモール 11月サービス開始

栃木県でAMラジオ放送を運営するCRT栃木放送は、栃木インターネットを運営する政府出資特別法人のシステムソリューションセンターとちぎと共同で、バーチャルモール「栃木エレクトリックシティ」を11月1日に開設する。バーチャルモールは官公庁街、ビジネス街、レジャースポット、観光案内、ショッピング街などから構成され、レジャースポットや観光案内は栃木県内の遊園地、公園、ゴルフ場、温泉などの情報を提供する。問い合わせや申し込みも可能で、利用者に直接回答を返す代行サービスも提供する。テナント料は共同出店で月2万~5万円、単独では月10万円。

問い合わせ (株)CRT栃木放送
TEL028-622-1111

Business 電子メールによる 新形態マーケティング 「iMi」がスタート

富士通とドゥ・ハウスは共同で電子メールによるマーケティング・メディア事業「iMi(いみ)」を開始する。ニフティサブおよびインターネットの利用者を対象に、企業と生活者が対話できるしくみを提供する。オンライン登録をしたメンバーに対して企業からダイレクトメールやアンケートなどが送られる。返事を出すとメンバーには謝礼(ポイント)が支払われ、一定の期間やポイント数になるとギフト券などと交換することができる。また、企業はメンバーの属性や趣味などの項目で検索して、結果をマーケティング戦略に役立てることもできる。同社は1997年3月までに13万人の登録を目指す。

URL <http://iminet.ext.fujitsu.co.jp/imi/>
問い合わせ (株)ドゥ・ハウス
TEL 03-5472-7904 (担当 日置・中嶋)

Education インターネットを使う 仮想教室プログラム AT&T Jens が10月から

AT&T Jens は、グローバルコモンズと共同で、インターネットを利用した仮想教室プログラム「AT&T Jens バーチャルクラスルーム・オン・ザ・ネット」を10月から実施する。プログラムは小・中・高校を対象に国内50校、海外100校を募集して選考し、国内1校と海外2校を1チームとして、合計50チームを構成。各チームはインターネット上で協力して新聞、音楽、調査などの作品を制作する。作品は創造性、インターネット上での人気度（ヒット数）などを考慮して審査され、最優秀作品が表彰される。

問い合わせ AT&T Jens バーチャルクラスルーム・オン・ザ・ネットプログラム事務局
TEL 03-3204-8104

URL <http://www.kids-commons.com/vc/>
✉ info@kids-commons.net

Education 横浜市の小中学校で インターネット活用の モデル事業スタート

横浜市は、市立小中学校でのインターネット活用を促進するモデル事業を9月から開始した。「インターネット・モデルスクール」として小中各1校にサーバーとパソコンを設置して、同市の高度情報化推進室のサーバーと専用回線で接続することにより、ホームページの作成など国内外に向けての情報発信ができるようにする。また、すでにパソコンを設置している小学校27校、中学校23校を対象に、同推進室とダイヤルアップで接続できるインターネット環境も提供していく。これにより、児童・生徒が授業あるいは課外活動などでインターネットを活用できるようにするのが目的。

問い合わせ 横浜市企画局高度情報化推進室
TEL045-671-3919

Service 設定・接続が簡単 マイクロソフトの プロバイダー参照サーバー

マイクロソフトは日本市場向けに「インターネット サービス プロバイダー参照サーバー」サービスを開始した。WWWブラウザ「Microsoft Internet Explorer 3.0 日本語版」を利用するユーザーに対して、国内の代表的なプロバイダーの情報提供と、オンラインサインアップサービスへの自動接続を行うもの。このサービスを利用することで、ユーザーは国内主要プロバイダーの情報を一度に入手できるとともに、インターネット接続の設定作業のわずらわしさからも解放される。サーバーへの接続は市内通話あるいはフリーダイヤルで可能。

問い合わせ マイクロソフト㈱インフォメーションセンター TEL03-5454-2300

URL <http://www.microsoft.co.jp/>

Service ホテルの予約が カード決済でOK JAPAN HOTEL SYSTEM

旅行会社のホワイト・ベアファミリーは、インターネットを使ったホテル予約案内サービスを行う。ホテルの予約からクレジットカードでの決済までを行うもので、このサービスを利用するためには事前に会員登録（無料）を行う必要がある。会員は利用額に応じてキャッシュバックを受けることもできる。

URL <http://www.hotelsys.co.jp/>
問い合わせ ジャパンホテルシステム
TEL06-371-3239（平日10時～18時）



10月からはスキーの宿も予約できる

Service 衛星データ放送 「スペースインク」 来年6月頃から開始

スペースインク企画は、衛星データ放送サービス「スペースインク」を来年6月をメドに開始すると発表した。デジタル衛星放送「パーフェクTV」の放送チャンネルとしてサービスし、視聴者はパーフェクTVのチューナーにパソコンを接続することでデータ放送を利用できる。サービス内容は新聞や雑誌などの高精細なページイメージを放送し、放送による電子出版を実現するもの。放送チャンネルを利用するため、スピードな出版が行え、運用コストも低いことが特徴。コンテンツごとに暗号化されて放送されるため、定期購読やスポット購読が行え、視聴料に併せて購読料を徴収できる。

問い合わせ ㈱スペースインク企画
TEL03-5956-7273

Service 三菱電機とセガが ネットワークゲームの 新会社を設立

三菱電機とセガ・エンタープライゼスは、9月9日、ネットワークゲームを提供する新会社「株式会社バーチャルゲームセンター」を設立した。資本金は1億円。

新会社では、セガをはじめとするさまざまなメーカーからゲームコンテンツを募り、会員制のサービスとして入会金・年会費ともに無料で提供する。まず、電子メールを利用したシミュレーションなどの思考型ゲームをインターネット上で提供し、将来はリアルタイムゲームも含めたゲームネットワークを構築していく。

サービスは11月開始を予定している。

問い合わせ ㈱バーチャルゲームセンター
TEL03-3744-3311

Event

産経新聞社が デジカメ写真を 毎月募集・表彰

産経新聞社は「産経デジタルカメラ大賞」を創設し、応募作品を受け付けている。テーマは自由で、作品はデジタルカメラで撮影した写真に限られる。募集は毎月20日締め切りの月単位で行われ、優秀作品は月間賞・佳作として同社の「産経Web」に掲載される。

また、1年に一度、年間賞を選定し、別途掲載する。年間賞の大賞には賞金10万円が贈られる。応募は1か月に1人2作品以内で、応募者の年齢、職業、国籍は問わない。応募希望者は電子メールまたはフロッピーディスクで作品を送付する。

問い合わせ 産経新聞東京本社電子電波局電子メディア部 TEL 03-3275-8782
FAX 03-3243-8450 (担当 山本まで)
URL <http://www.sankei.co.jp/>

Service

VDOLiveで 映画・ビデオの 予告編を上映

ギャガ・コミュニケーションズは、ワークス、ファイバーキャストジャパンと3社共同で、「VDOLive」を使用した動画実験を開始した。実験はギャガ・コミュニケーションズが運営する「ビデオインサイダー・オン・ザ・ネット」上で行う。スタート時には8タイトルの映画のメイキング版を動画で提供し、年内には70タイトルまで増やす予定。

URL <http://vie.co.jp/vin/>



ビデオインサイダー・オン・ザ・ネット

Event

「朝日デジタル広告賞」創設 デジタル広告作品を一般募集

朝日新聞社は「朝日デジタル広告賞」を創設し、一般公募の部の作品を募集している。この賞で広告の新しい表現方法を開拓するとともに、デジタルデザイナーの育成をはかるのが狙い。審査委員長は相磯秀夫慶応義塾大学大学院教授がつとめ、そのほかに特別審査委員には音楽家の坂本龍一氏、映画監督の森田芳光氏、アーティストの日比野克彦氏、慶応義塾大学環境情報学部助教授の奥出直人氏、タレントのリサ・ステッグマイヤーさんらがあたり、また「アサヒ・コム」で募集する30人の一般審査員も選考に参加する。

募集作品のテーマは朝日新聞広告面と「アサヒ・コム」に随時掲載される。応募希望者は各広告主が提示したテーマに添って作品を制作する。応募作品はHTMLで

記述した未発表のオリジナル作品に限り、容量は画像なども含めて最大1Mバイトとする。審査はネットスケープ2.0以上のブラウザで行われ、作品の中でプラグインを使用する場合はShockwaveを使用することとされている。

入賞作品には最高100万円の賞金が授与され、作品が課題を出した広告主のホームページ上で使用されることもある。作品の著作権は朝日新聞社に帰属する。応募締め切りは10月15日。入賞発表は来年1月上旬、朝日新聞とアサヒ・コム上で行われる。

問い合わせ 朝日デジタル広告事務局
TEL 03-3469-6813 土日祝を除く、
平日10時より17時まで受け付け
URL <http://www.asahi.com/>

Service

浮世絵オークション ホームページ上で 伊場仙が開始

江戸時代からの浮世絵の老舗版元である伊場仙は、ホームページ「浮世絵ミュージアム伊場仙」上で浮世絵のオークションを始めた。葛飾北斎、喜多川歌麿、歌川広重などの浮世絵の画像と、時代、サイズ、コンディションのほか、最低落札価格が表示されており、希望者は入札用紙に、商品名と落札価格などを記入して送信する。

問い合わせ (株)伊場仙 TEL03-3664-9261
URL <http://www3.netalice.or.jp/netalice/gallery/ibasen/>



つい1に始まった浮世絵オークション

Service

インターネットで 映画情報提供 「CINEMA VIEW」

リクルートは9月4日より映画情報ページ「CINEMA VIEW」を開設した。上映スケジュールは検索が可能で、劇場の地図や作品の解説も掲載している。毎回テーマを決めて懐かしい旧作ビデオの紹介も行う。またユーザーは映画の感想を書き込んだり、人気投票に参加することができる。10月からは一部作品については動画も提供していく予定。

URL <http://mixj.rnet.or.jp/cinemaview/>



映画ファンは要チェック

Product インターネットFAX
NEC情報サービスが
発売開始

NEC情報サービスは、インターネットやイントラネットを利用してFAX配信ができるツール「Cotton/I (FAX)」を開発、10月から発売する。パソコンからのFAX出力はFAXモデムを利用して行えるが、プリンターの設定が必要なことや、遠隔地へ送信する場合は電話料金が高くなる。これに対して新製品では、WWWブラウザを利用してFAX出力を行えるため、操作が簡単で、しかもインターネットを利用するので遠隔地へのFAX送信費用も低減できるのが特徴。UNIXシステムのOS「Solaris Ver2.4」上で動作し、価格は498,000円になっている。

問い合わせ 日本電気情報サービス㈱
TEL03-3454-5711
URL <http://www.neis.co.jp/>

Product OCN時代に向けた
コンパクトルーター
東芝が12月に発売

東芝は、SOHO (Small Office/Home Office)市場向け低価格コンパクトルーター「AR-600」を商品化し、12月より販売を開始する。年末に予定されているNTTのOCNの登場で、SOHO分野でのネットワーク構築のニーズが高まることを見込んだもの。製品は、WWWブラウザ上から簡単に設定できる。ISDNや高速デジタル回線に対応し、同期64Kbpsのほか、64Kbpsを2本束ねて128Kbpsとして使用することもできる。価格は、DSUなし、アナログポートなしのタイプ「AR-600」が11万円、DSU内蔵、アナログポートなしの「AR-610」が14万円、DSU、アナログポート内蔵の「AR-611」は155,000円。

問い合わせ ㈱東芝 コンピュータ・通信ネットワーク事業統括部
TEL03-3457-2725

Product Netscape Navigator
3.0日本語版登場
10月に正式版出荷

日本ネットスケープ・コミュニケーションズは9月11日記者発表会を行い、この秋から日本市場に投入する「Netscape Navigator 3.0J」をはじめとする製品群を発表した。WWWブラウザについて、同社はマイクロソフトに比べて日本語化が遅いとの指摘があるが、製品の性能については優位性を強調したうえで、日本語版の出荷時期はベータ版は9月中、製品版は10月に出荷予定と説明した。また、オーサリング機能を統合した「Netscape Navigator Gold 3.0」製品版のリリースは11月になる予定。現在開発中の「Netscape Navigator 4.0」(開発コード名ガリレオ)では、マイクロソフト社の「ActiveX」をサポートする可能性があることも示唆した。

Product 33.6Kbps モデム
「DeskPorte33.6S」
マイクロコムが発売

最大通信速度33.6KbpsのFAXモデム「DeskPorte33.6S」がマイクロコムから発売された。新製品は、既存のV.34規格の28.8Kbpsモデム「DeskPorte」をベースとして、ITU(国際電気通信連合)から近く勧告される予定のV.34オプション規格に対応したもの。このV.34オプション規格はV.34からの変更が簡単のため、今後ほとんどのインターネットプロバイダーが採用するものと見込まれている。Windows用とMacintosh用があり、添付ソフトはWindows用が「WTERM for Win」とFAXソフト「EasyFax-Lite」、Macintosh用がFAXソフト「Delrina Fax Lite」。価格はいずれも27,800円。

問い合わせ マイクロコム㈱
TEL03-3278-1041

Product セガから液晶搭載
デジタルカメラ
29,800円で発売

セガ・エンタープライゼスはデジタルカメラ「SJ-1 DIGIO (ディジオ)」を11月から発売する。価格は29,800円と低価格で、25万画素のCCD、0.7インチのTFTカラー液晶モニター、記録媒体としてSSFDCメモリーカードを備え、最小20mmの距離まで近接撮影できる。解像度は標準で320×240ドット、低解像度モードで160×120ドット。

問い合わせ ㈱セガ・エンタープライゼス
TEL0120-012235



Product ニフティマネジャーが
バージョンアップ
Windows 95 正式対応

ニフティサーブとインターネットの連携ができる通信ソフト「ニフティマネジャー」のWindows版がVer.2.00になり、Windows 95に正式に対応した。これまではアクセスするためにダイヤルアップネットワークの設定などが必要だったが、新バージョンでは、Windows 95のウィザード画面で簡単に設定できるようになった。ニフティマネジャーの専用コーナーでダウンロードできるが、CD-ROMの郵送申し込みも受け付けている。



WWWブラウザとの連携が魅力

THE
INTERNET 1996
WORLD EXPOSITION

インターネットエキスポ'96 通信

No.11

開催期間：1996年1月1日～1996年12月31日

<http://park.org/>

第2回ラリーレイドモンゴル・レポート レースの状況をストリームワークスで中継

IBM がラリーに参加
10日間のレースの様子をリアル中継

IBM パビリオンでは、8月15日から24日までモンゴルで開催されていた「第2回ラリーレイドモンゴル」のレースの状況を紹介している。レース中はThinkPad560、マシンの走行軌跡を計るGPS、電源となるUPSを搭載したIBMの四輪マシンからインマルサット(海事衛星)を通して現在位置や走行状況が送信されて、ストリームワークスで、砂漠を疾走するマシンの映像を見ることができた。そのほか、日本から電子メールで送られた選手への応援メッセージ(総メール数は約520通!)や中継スタッフがデジタルスチルカメラで撮影したモンゴルの風景もあわせて紹介されており、過酷なレースの状況を伝えていた。

今回のレース中継はIWE 96の公式イベントとして、IBM パビリオンとWIDEのスタッフ計6名が担当。その日のレースの結果や映像はリアルタイムで(遅延は1～1.5秒くらい)日本で待機しているIBMスタッフ(約7名)の元に衛星を通じて送信され、IBM パビリオンのラリーページにアップデ



今回のスタッフとしてラリーに同行した酒井さん(左)と重近さん(右)

ートされたそうだ。ストリームワークスの画像データも、現地でエンコードして日本に送信していたそうで、現地スタッフはほぼ徹夜状態で作業していたという。

スタッフ最大のピンチは、通信衛星をなかなか受信できなかったこと

今回、実際にモンゴルでラリーの中継をしたIBM パビリオン担当の酒井さんとWIDEプロジェクトのメンバー、慶応義塾大学の重近さんによると、衛星と通信できる状態になるまでが大変だったという。機材などはすべて動作環境をチェックして、日本から持っていったそうだが、それでも現地ではつながらなかったそうだ。最初は、アンテナを仰角25度にしてインド洋の衛星にコンタクトしようとしたが、受信できず、仰角0度の太平洋の衛星にきりかえたところ、レース3日目にしてやっと通信ができたそうだ。衛星にはインマルサットのBタイプ(64K)が使われ、日本へはリンクスXという衛星電話で連絡を取っていたとのこと。ちなみに、この電話の使用料金は1分当たり約2000円というから、かなり高い通話料である。通信手段が衛星しかないため、スタッフはかなりあせったとか。

過酷な自然環境の中で

今回のラリーは、開催地がモンゴルということで、通信手段はもちろんのこと、スタッフは気候にもかなり悩まされたという。



ラリーレイドモンゴルのページ
URL <http://www.ibm.park.org/Japan/Mongolrally/>



レース中の車から撮影された風景(上)とストリームワークスで中継された画像(右)

昼間は30度近くにまでなる気温も、夜には真冬なみになるそうだ。ゲル(柳の枝の骨組みに羊の毛皮をかぶせた簡易式住居)が集まっているツーリストキャンプには電気や水道が通っているのだが、レースコースの都合上、そこに泊まれないときは山の中でテントを張り、寒さに震えながら一夜を明かしたりと、想像を絶する過酷さだったようだ。

それにしても、まったく何も無い場所から衛星を使った中継に成功したことは、インターネットの新たな可能性を見せてくれた試みといえるだろう。

「坂本龍一トリオツアー1996」を渋谷オーチャードホールから中継

インターネット1996 ワールドエキスポジションは、8月28日、渋谷オーチャードホールで行われた坂本龍一のコンサートの模様をストリームワークス、リアルオーディオ、VDOLive、ソフトウェアビジョンを使ってインターネットで中継した。当日は、エキスポの坂本龍一ライブのページから、中継が楽しめるようになっていた。そのほかWIDEの協力で、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスと奈良先端科学技術大学院大学の2か所で衛星中継された。

当日、会場となったオーチャードホール



◎ こちらはオーチャードホール内の中継室

◎ ソフトウェアビジョンで見た映像



には、インターネット放送用の中継室が設けられ、リハーサルと本番の両方の様子をエキスポの回線を通じて流していた。ステージでの演奏風景ほか、楽屋でくつろいでいる“教授”の姿も見え、ひと味違ったコンサート中継となった。

中継室には6台のエンコード用マシンが置かれ、サーバー用、モニター用などを合わせると、20台近くのマシンがところ狭しと並んでいた。今回、演奏中、テロップと曲名が受信画面に表示されていたが、これもこの中継室で曲に合わせて、画面を挿入していた。

実際に編集部で最もきれいに再生できたのは、NTT ヒューマンインターフェース研究所が開発した映像配信技術、ソフトウェアビジョンだった。同研究所のホームページ (<http://www.hil.ntt.jp/SoftwareVision/index-j.html>) からソフトウェア



「坂本龍一トリオツアー1996」

URL <http://park.org/Japan/Sakamoto/>

ビジョンプレイヤーをダウンロードして受信する。画面を見ていると5～10秒くらいのずれが感じられたが、テレビに劣らないくらいスムーズな映像が楽しめた。受信しながら映像の録画もできるので、今後ストリームワークス以上に注目される技術になるかもしれない。

高校野球、広島・長崎平和記念式典をストリームワークスで中継

8月8日から熱戦が繰り広げられた第78回全国高等学校野球選手権大会の様子が、今年リアルオーディオとストリームワークスで中継された。試合はABC朝日放送の協力で甲子園球場から中継されたため、スコアの表示や選手紹介など、テレビの試合中継とほとんどかわりない映像を受信できた。

また、広島・長崎平和記念式典の様子もリアルオーディオとストリームワークスで中継された。インターネットで放送されることによって、世界中に原爆の恐ろしさが伝えられたのではないだろうか。

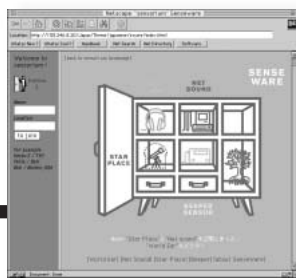


Net Soundでネットワーク内の音を聞いてみよう

エキスポのテーマ館 Sensorium の「Senseware」で、ネットサウンドが公開された。

ネットサウンドとは、東京工業大学の大学院研究室で使用されているFTPやHTTPなどの通信プロトコルにMIDI音源を割り振り、ネットワークの音をリアルオーディオで聞けるようにしたもの。普段おなじみのプロトコルも音で聞く機会がないだけに、試してみたいか？

URL <http://park.org/Japan/Theme/japanese/sware/>



1996 インターネット・グラフィックデザインコンペティション作品募集中

富士通パビリオン内では、グラフィックアートのオリジナル作品を募集している。

写真、版画、パステル画など表現方法は自由。作品は、プリントもしくはポジフィルム(オリジナルは不可)にして郵送するか、フロッピーディスクに収めて郵送するか、電子メールに画像を添付して送信するかして申し込む。応募は1人(1グループ)5点まで、1点につき1,000円の手数料が必要。

応募は1996年10月31日消印まで。入賞作品はホームページで紹介され、グランプリには20,000USドルが与えられる。

郵送での申し込み先：
〒150 東京都港区芝大門1-2-6 関口ビル
(株)NEST内 1996IGDC事務局
電子メールでの申し込み先：
✉ nest@mb.infoweb.or.jp
URL <http://park.org/Japan/Fujitsu/1996igdc/>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp